平成２年度厚生省心身障害研究
「新生時期・乳児期の生活管理のあり方に関する総合的研究」

長期入院児の退院後の医療ニーズに関する研究

（分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究）

研究協力者　門　井　伸　暁
共同研究者　大　田　剛　穂

要　約：NICU長期入院児の退院後の医療ニーズを把握するために、退院後の当院受診回数、再入院回数および日数を調査した。退院後の１カ月当りの受診回数の比較においては、長期入院児1.1回に対し、対照群は0.3回であり、有意差が認められた。さらに、再入院回数の比較においては長期入院児1.1回に対し対照群は0.5回、入院日数の比較では長期入院児28.3日に対し対照群が4.7日と、いづれも有意差が認められた。以上より、長期入院の未熟児に対しては退院後も小児科医が主体となった一貫管理と多方面からの援助が必要と考えられた。

見出し語：long term care, NICU, 超未熟児, 極少未熟児, 医療ニーズ

研究方法：1985年1月から1988年末までの4年間に当院 NICU に90日以上在院した出生体重1、500g未満の児で24カ月以上経過観察を行なえた47症例を対象とした.当院のコンピュータシステムにより、退院後の受診回数、再入院回数、再入院日数ならびに診断名などの情報を得た。比較のため、同じ調査期間に出生した極小未熟児のうち入院期間が90日を超過せずしかも24カ月以上経過観察し得た52例を対照群とした。

結　果（表1）：退院後の１カ月当りの受診回数の比較においては、長期入院児1.1回に対し、対照群は0.3回であり、有意差が認められた。長期入院児の受診料別割合は、小児科79％、眼科15.9％、耳鼻科2.2％、小児外科1.7％で、受診理由は脳性マヒのリハビリ、けいれん性疾患、ROPの経過観察、気道感染などであった。

再入院回数の比較においては、長期入院児1.1回に対し、対照群は0.5回であり、有意差が認められた。入院理由は細気管支炎・肺炎などの気道感染が最も多く（49.1％）、次いでけいれん性疾患やシャント不全などの頭蓋内病変の後遺症に起因する病態（43.6％）であった。一方、対照群の入院理由は気道感染が62％と最も多く、次いでソケイヘルニア手術が28.6％であった。入院日数の比較では、長期入院児が28.3日、対照群が4.7日であり、有意差が認められた。

考　察：NICU長期入院児の約2／3は極小未熟児・超未熟児であり、児の未熟性に起因する病態、すなわち慢性肺疾患、未熟網膜症、低酸素性虚血性脳症、出血後水頭症、壊死性腸炎およ

北里大学医学部小児科：
Dept. of Pediatrics、Kitasato University, School of Medicine,

るものと考え、研究をおこなった。

退院後1カ月当たりの受診回数は、約3倍の頻度で長期入院児が多かった。また、退院後1カ月当りの入院日数は、8倍の差が認められた。さらに退院後の受診回数と入院日数の合計を比較すると、長期入院児（1.9／月）と対照群（0.4／月）では4倍強の頻度差が認められた。したがって、長期入院児は対照群に比較して医療ニーズが高いことが示された。受診科の検討では、小児科の受診が79％、次いで眼科15.9％であり、この結果よりフォローの主体となる医師は小児科医が適当と考えられた.

さらにこの結果には、神経学的後遺症を有する児の頻度差が退院後の医療ニーズに有意差を及ぼしている可能性が考えられたため、後遺症児を除外して同様の比較を行なった。

神経学的に正常な長期入院児（40例）と対照群のうち神経学的に正常な児（47例）の受診回数、入院日数を比較すると、長期入院児の方がいづれも有意に高く、対照群に群に比較して医療ニーズが高いのは、単に神経学的後遺症の頻度差によるものでなく、より未熟な状態で出生したことがその理由と考えられた。

以上の結果より、長期入院の未熟児に対しては退院後も小児科医が主体となった一貫管理と多方面からの援助が必要である。

表1　長期入院児と対照群の退院後における受診および再入院に関する比較

	長期入院児47 （平均±標準偏差）	対照群52 （平均±標準偏差）
出生体重（g）	952 ± 207	1201 ± 181
在胎週数（週）	28.0 ± 2.9	29.4 ± 2.0
NICU在院日数	138.4 ± 57.5	71.5 ± 13.6
総受診回数＊	32.8 ± 29.0	14.8 ± 16.0
退院後の1カ月当たりの		
受診回数（A）＊	1.1 ± 1.0	0.3 ± 0.3
再入院回数＊	1.1 ± 2.3	0.5 ± 0.9
再入院日数＊	28.3 ± 73.0	4.7 ± 9.5
退院後の1カ月当たりの		
入院日数（B）＊	0.8	0.1
（A）＋（B）＊	1.9	0.4

＊P＜0.05

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:NICU 長期入院児の退院後の医療ニーズを把握するために、退院後の当院受診回数、再入院回数および日数を調査した。退院後の1ヵ月当りの受診回数の比較においては、長期入院児1.1回に対し、対照群は0.3回であり、有意差が認められた。さらに、再入院回数の比較においては長期入院児1.1回に対し対照群は0.5回、入院日数の比較では長期入院児28.3日に対し対照群が4.7日と、いづれも有意差が認められた。以上より、長期入院の未熟児に対しては退院後も小児科医が主体となった一貫管理と多方面からの援助が必要と考えられた。